

モスクワにおける流鎊馬行事（説明書 2（1）に関する参考情報

一例として小笠原流流鎊馬を実施することとなる場合は、主に以下のような条件を確保することが期待されます。

1 流鎊馬本行事

- (1) 行事日程として以下を想定。このうち、設営を求めるものは流鎊馬のみ。
 - 開会式（20分）
 - 流鎊馬（70分）
 - ジギトフカ（コサックの民族的騎乗芸術）（50分）
 - 露側騎手による流鎊馬体験（30分）
 - トロイカ（三頭立て馬車）によるデモンストレーション（30分）
 - 閉会式（10分）
- (2) 流鎊馬実施に際し、演者の着替え・準備スペース、機材の保管場所及び実施後に着物を干しておくための場所を会場施設内に設ける（いずれの場所も施錠可能な必要あり）。右については、中央競馬場側から無償提供予定。
- (3) 場内音声放送設備は会場に備え付けのものを使用。
- (4) ロシア弓道連盟代表者が行事司会を務める予定のため司会の手配は不要。
- (5) 行事司会はロシア語のみで実施するため司会用の通訳は手配不要。ただし、解説ブースに解説補助通訳1名を常駐させること。

2 行事实施に係るロジスティクス

- (1) 日本からの参加予定人数及び構成は以下のとおり

ア 訪問団長 1名

イ 射手 15名

ウ 装束等補助要員 13名

- (2) 必要経費

ア 日本からの参加者の訪露に係る経費

(ア) 航空賃 成田—モスクワ（※4名分をビジネスクラス、その他の参加者はエコノミークラスで計上）

(イ) 謝金（代表団全体への謝礼として、160万円を計上）

(ウ) 現地移動要車両借上費（18名乗りミニバン2台、大型バス1台、荷物車2tトラック1台等を適当日時に手配）

(エ) 宿泊費 7泊（15名分はモスクワ中央競馬場至近に所在する Hotel Bega に、14名分は市内適当箇所に宿舍を手配）

(オ) 食費 昼6回、夜5回（実費精算とする）

(カ) 日本国内交通費 東京—成田間往復

イ 会場費 (※すべての行事を入場無料で開催)

(i) 本行事, 公開練習 (モスクワ中央競馬場)

会場費はロシア側負担のため会場費は計上しない。

(ii) 武者行列 (全ロシア博覧センターなど)

会場費は計上しない。

(iii) 講演 (国際交流基金モスクワ事務所など)

会場費は計上しない。

(iv) フォトセッション

会場費は計上しない。

ウ 機材

(ア) 本邦から, 衣装, 武具, 馬具, 幕 (合計約1, 000kg) を運搬

(イ) 現地調達機材: 大型テント (2~3張), 小型テント (1張), 椅子 (200脚), ロープ (500m×2本), 青竹 (約2m×3本), 杉板 (55cm×55cmの的を80枚作成), 大型ディスプレイ (約200インチ×2台), 写真解説パネル (A0サイズ×10枚) 等, 行事实施に必要なもの。行事に使用する馬はロシア側から無料で提供。

エ 広報宣伝費

(ア) 本競馬場の収容人数が1万人であるところ, これをふまえた集客のため広報資料を作成し, テレビを含めた媒体で適当な広報を行う。

(イ) 流鏝馬本行事の実施をオンラインでライブ中継するなど, インターネットを活用し, より多くの市民に行事实施を広報できるよう手配する。

(ウ) 事前広報の一環として, 甲冑など伝統的な衣装を身につけた参加者による武者行列による行進, フォトセッション, 日本伝統文化 (流鏝馬及び礼法) に関する講演を実施する。

(エ) 行事の広報のため, 流鏝馬行事本番前の1日の練習を公開練習とする。

以上